

ヒルファディング外伝 2

— ドイツ独立社会民主党の終わりの時代 —

倉 田 稔

も く じ

はじめに

1. ドイツ共産党創立
 2. 1月蜂起
 3. ヒトラー
 4. ワイマルル国民議会選挙
 5. ヴェルサイユ条約, パリ平和会議
 6. ワイマルル憲法
 7. 第1次社会化委員会
 8. カップー揆
 9. 国会選挙
 10. バイエルン・レーテ
 11. コミンテルン
 12. 第2次社会化委員会
 13. 賠償
 14. 独立社会民主党
 15. 共産党
- 小 括

はじめに

小生は、世界で最も詳しいヒルファディング伝、ただしその前半生についてを、『若きヒルファディング』（丘書房）で、書いた。その後、中期ヒルファディングについて、少し書いた。それらは、

「中央ヨーロッパ論」（『国民国家の分裂と統合』北樹出版）、

「社会民主党共同行動団の成立」（『商学討究』30の3，1979年12月），
「USPD およびヒルファディング外伝，おもに1918年まで」（『商学討究』48
の1，1997年9月）

である。本稿はその続きである。ヒルファディングの中期外伝である。本稿は完成されているとは言えない。また，中期については，上条，黒滝，河野，Small dane の研究がなされている。『商学討究』にヒルファディングを書くのは最後だろうと考え，ノートとして出す。

1. ドイツ共産党創立

USPD（ドイツ独立社会民主党）に属していたスパルタクス団は，1918年12月30日から翌年1月1日にかけて大会を開き，ドイツ共産党（スパルタクス団）を創立した。同団は，指導者ローザ・ルクセンブルグやカール・リープクネヒトのグループと，左翼の人々とからなっていた。その左翼の人々は，戦争と敗戦と革命という社会的激変の中で，「革命的」冒険主義に傾き，あるいはユートピア的一揆主義に陥っていた。この党は，国民議会選挙を拒否した。これは戦術的には誤りであった。ドイツ共産党の成立をもって，ドイツ社会主義史上の真の革命党の成立と見なされることがあるが，実際は，「真の革命党」と言えるかどうかは，大いに疑問である。その根拠となるのは，一般的に共和国時代のドイツ共産党は，2つの重要な欠点を持っていたところにある。第1に，特に結党初期に，党内に多数の冒険主義者を擁して，冒険主義的試みを行なった。第2に，コミンテルン加盟以後，コミンテルンの教条主義に対して，主体的で独自の戦術が立てられず，その運動がコミンテルンによって引き回されたことである。

「スパルタクス団」は，ドイツ共産党を創立する際に，USPD内の革命的オププロイテに加入を求めた。彼らと，ルクセンブルグ，リープクネヒトの派とは，ほとんど同じであった。革命的オププロイテは，共産党への加入を希望していた。しかし，この加入は不成功に終わった。統一への交渉で，革命的オププロイ

テは、共産党＝スパルタクス団にいくつか条件を出した。国民議会選挙ボイコット戦術をやめること、統一する政党の綱領委員会に両者対等に加わること、新党から「(スパルタクス団)」という名称を除去すること、一揆主義をやめること、その他であった。合同条件としては、これは正当なものであった。しかし新共産党内の過激派の反対にあって、一致を見なかった。この反対は非合理であった。こうして統一の機会がみすみす失われた。共産党の誤りであった。ローザやリープクネヒトが、党内の冒険主義者と分裂して、革命的オップロイテと合同すれば、後年のドイツ共産主義にとって極めて有意義となっただろう。

この党は初め全国で数千人の党員を擁していた。重要地区の労働者は USPD にとどまったために、共産党が USPD から組織的に分裂したかたちとなった。

2. 1月蜂起

ドイツ革命後のドイツ社会民主党 (SPD) に対する抵抗から、ドイツ独立社会民主党 (USPD) の政治家が辞職し始め、続いて、高級官僚の辞職が行なわれた。ベルリン警視總監エミール・アイヒホルン (独立派) は、しかし辞職しなかった。ところが社会民主党 (SPD) が支配するプロイセン政府は、アイヒホルンを1919年1月4日に、罷免した。急進的労働者はこれに激怒した。翌日1月5日、ベルリンで20万人のデモが行なわれた。これには、新しくできた共産党、革命的オップロイテ、UDSP 幹部派が、同調した。

これが不測の事態に発展した。スパルタクス派の武装した一部が、社会民主党 (SPD) 中央機関紙『フォルヴェルツ』編集局などを占拠した。翌日に巨大なデモが起きた。しかし、この時期の反体制派の政治的不統一がここで露呈した。3つの団体は、革命委員会を作った。ドイツ独立社会民主党 (USPD) と大部分の革命的オップロイテは蜂起を考慮しておらず、スパルタクス団指導部も蜂起は無意味だと思った。だがスパルタクス団の半分と革命的オップロイテの少数が、『フォルヴェルツ』にたてこもり、闘争を行なおうとした。彼らの蜂起に、新共産党指導部がやむなくひきずられていった。次のような説がある。

この時、軍事力を持たなかった政府に対して、3つの団体が蜂起すれば、社会主義的政権奪取の可能性があった、と。これはロシア流の説¹⁾であるが、興味深い。しかし、2, 3千人の部隊が蜂起しただけであって、それも計画的ではなかった。この少数者の蜂起では自殺行為に等しかった。

新人民委員ノスケは、ベルリン蜂起を鎮圧する最高指揮権を与えられた。社会民主党の労働者と社会民主党に共鳴する旧守備軍の一部に加えて、ノスケは新しい義勇軍を編成した。これは旧軍隊から主に募集され、スパルタクス団を憎む集団であった。1月8日から、蜂起者に対する武力討伐が始まった。戦闘は12日まで続いた。しかしもちろん鎮圧された。1月15日は象徴的であった。ローザ・ルクセンブルグとカール・リープクネヒトが捕まり、この義勇軍によって暗殺されたのである。この鎮圧と謀殺は、今後ドイツ社会主義にとって2つの重要な要素をなす。第1に、もうこれ以降、第2次大戦まで、ドイツに革命の変革の機会も可能性も消えるのである²⁾。第2に、ドイツ社会民主党は、ドイツの急進的労働者の人気を落とした。そればかりでなく、共産主義派はSPDを主要な敵と見るのである。後年コミンテルンは同じ戦術を出す、それが受け入れられた素地はこの時に発生していた。コミンテルンのその戦術自体は間違いである。また、もちろんSPDは、ローザやリープクネヒトの殺害を望んでいたわけではない。SPDが秩序維持のために蜂起者に対して取締りをする必要はなかったわけではない。しかし反革命的傾向の義勇軍の編成という、政治的に誤ったやり方をしたのである。

この義勇軍は、この事件の後、旧帝国将校を中心に募集が続けられた。重要なことは、彼らがこの鎮圧と、これ以降の鎮圧を行う中で、自らの武力を自覚して行くことであった。彼らは後にバイエルン・レーテ共和国を倒すのである。そして、その後の民間の右翼団体の基礎となっていく。その中の1つにナチ党があった。軍人勢力は強化される。

1) アルトゥール・ローゼンベルグ『ワイマール共和国の成立』

2) アルトゥール・ローゼンベルグ

「……軍部の復活は、主として、古い軍部を必要不可欠のものにしたワイマール指導者たちの責任であった。共和国を宣言した翌日の11月10日、エーベルトはグレーナー将軍との間に広範な協定を結び、秩序の維持のため軍の援助を受け入れた。正規軍は、大急ぎで編成された自由志願兵の援助を受けて、戦闘的なスパルタクス団の数十名を射殺した。共和国の「刑事」である社民党のノスケ内相は、右翼の軍隊に広範な行動の自由、つまり組織的な暗殺を認めた。」³⁾

3. ヒトラー

アドルフ・ヒトラーは、オーストリア、オーバー・オーストリアのブラウナウに生まれ、転校、放校をした。ヒトラーは17才で性病にかかった。ウィーンへ行き、美術学校の受験に2度失敗し、浮浪した。フランス人ゴビノーは論文「人種の不平等について」(1851年)で、アーリアン人種について述べていた。この種の文献が氾濫していた。後にヒトラーが高く評価する高名なニーチェはしかし反ユダヤ主義を拒否していた。

ヒトラーは、ハプスブルク帝国の兵役を拒否し、バイエルンへ逃れた。だが彼は第1次大戦に志願し、参戦した。1916年9月に、ある声を聞き、グループから離れると、離れたグループへ砲弾が落ち、彼だけが助かった。神に選ばれたと、彼は後に思った。18年10月13日にベルギーで戦闘し、イギリス軍の毒ガスで目をやられた。ヒトラーは、パーゼヴァルク病院へ入院し、精神科医ドクトル・フォルスターに治療を受けた。彼の目は治った。しかし彼は、見えないと言う。それはヒステリーであった。自分は出世もしないし、と彼は不服を言うのであった。だが催眠方法で、その神経症は治った。エルンスト・ヴァイスの書では、フォルスターは、ヒトラーに催眠術をかけ、ドイツを救え、政治家になれと、言った。ヒトラーはその気になったのである。フォルスターは、こうして催眠術で何人かを救った。ヒトラーが政権を取った後、フォルスター

3) ピーター・ゲイ『ワイマール文化』36ページ。

は自殺に追い込まれる。

ドイツ革命（1918年）は、まったく急な急進的な、上からの革命であった。これが、ワイマール国民議会を作らせた。革命は、ビスマルク憲法の根本的改造に帰着した。予期せぬ、強要された、民主主義であった（Bracher）。

戦後、ヒトラーは軍部に雇われた。そして、とある政党に入党した。1920年サルツブルグ大会で、2つの党が合同し、ナチ党になった。Nationalsozialistische deutsche Arbeiterparteiである。1921年にヒトラーは指導権をとった。このナチ党綱領づくりに、ゴットフリート・フェーダーが関わった。フェーダーは古い党员で、土木技師だったし、風変りな経済思想をもった。

ファシズムの原因は、1. 先進帝国主義を中心とするヴェルサイユ＝ワシントン体制にたいする後進帝国主義の挑戦、反対と不満であった。2. コミンテルンにたいする対抗であった。3. 第1次世界大戦後の資本主義社会の動揺によった。

あるいは、1. 第1次戦の荷重負担による国家と社会の全面的混乱によった。2. 跛行的近代化による緊張と対外発展が不可能という危機意識によった。3. 民主主義のひ弱さ。4. ロシア革命の衝撃。

ドイツでは、右翼と軍部が強大になった。その理由は、極左派が民主主義でなく、社会主義（暴力革命、国民に支持されない少数者独裁）をねらい、結局、軍人勢力を強めた。また司法が右翼に甘かった。官吏は帝制時代から続いていた。

4. ワイマール国民議会選挙

1918年12月16日から始まったドイツ全国労兵協議会では、社会民主党が圧倒的優位を占めた。ここで国民議会選挙を翌1月19日と決定した。

1919年1月19日、国民議会の選挙が行われた。有権者は約3600万人で、総投票数は3040万票であった。⁴⁾その選挙結果はこうである。

4) 前回は、1912年の国会選挙であり、総投票数1220万であった。今回は、20才以上の全女性と、20才以上25才までの男性が、新しく投票した。

政 党	得 票	得票率	議席数
社会民主党	1151万	38%	163
独立社会民主党	232万	8%	22
中央党	598万	20%	91
民主党	564万	19%	75
ドイツ国民党	312万	10%	44
ドイツ人民党	135万	4%	19
その他			
計	3040万		423 ⁵⁾

この総選挙で、社会民主党（SPD）が農村で大勝利をした。ワイマール連合（SPD、中央党、民主党）が、4分の3を得票した。国民はエーベルト・コースを是認した。

共産党は創立大会の決定に従って、選挙を放棄した。この状況では誤った戦術であった。国民議会は、1919年2月6日、ワイマールの国民劇場で開会された。常識的には首都ベルリンで開くことが考えられた。しかしベルリンは1月蜂起のあとであり、粉砕していたし、ベルリン労兵協議会が強力であった。結局、スパルタクスの騒乱を避けるという治安上の理由で、ワイマールが選ばれた。もちろんワイマールでさえも、反政府の動きがあるので、7千人の義勇軍が派遣された。

第1党になった社会民主党は、単独で政権を取れなかったので、連立政党を求めた。まず独立社会民主党に呼びかけた。2月5日、社会民主党国会議員団は提案した。「……貴党は、社会主義的民主主義、つまりすべての点で国民多数の意志によって規定される国家形態を承認することにもとづき、また同時に、一切の騒乱戦術を排除することを前提し、入閣する用意があるかないか。」

翌6日、独立社会民主党は回答した。

5) Protokoll SPD 1919 などより作成。

我々としては、「現在の権力支配が除去されるまで、そして政府の全閣僚が、革命の民主主義的・社会主義的成果をブルジョアジーと軍部独裁から護るという誓約をなし、かつその断固たる意志を表明するまでは、入閣はとうてい問題にならない。」

こうして両党は連立はできなかつた。もし両党が協力していたら、共和国はより安定していただろう。社会民主党は、次に、中道ブルジョア政党、つまり中央党と民主党に連携を申し出た。

2月11日、エーベルトが臨時大統領に選ばれた。12日に新政府が作られ、シャイデマンが首相、法相ランツベルグ、国防相ノスケ、経済相ヴィッセル、これに加えて、社会民主党は、バウアー、ダヴィド、ローベルト・シュミットの3人の閣僚をも出した。中央党は、エルツベルガーなど3名、民主党は、フーゴー・プロイスら3名、外相ランツァウは無所属ブルジョアであった。国会選挙で、社、中、民の、いわゆるワイマール連合が勝利したのだ。シャイデマン内閣が始まった。

「革命は、ワイマール国民議会を導いた。」「革命は、ビスマルク憲法の根本的改造に帰着した。」と、Bracher⁶⁾は述べる。

5. ヴェルサイユ条約、パリ平和会議

1919年1月18日に、パリ平和会議が開かれ、戦勝諸国による戦後処理が討議された。米・英・仏・伊・日が主な参加国で、指導国であった。フランス大統領クレマンソーの反対によって、旧協商国であるロシアの、今はボルシェヴィキの代表は参加しなかつた。また当事者たちは、ボルシェヴィキの政権を認めようとしなかつた。一方、モスクワでは同じ時期に、国際共産党=コミンテルンが創立されるのである。

6) Karl Dietrich Bracher, Die Auflösung der Weimarer Republik, 4. Aufl., Villingen/Schwarzwald 1964.

なお、ワイマール共和国の弱点について、ブラッハー、S. 17。

パリで、ロシア干渉、国際連盟、ドイツ国境が決められた。ドイツらの植民地放棄、そして賠償が決められようとした。

連合国と敗戦諸国との間で結ばれた諸条約のうち、対ドイツのそれはヴェルサイユ条約であった。ウイリスンの14箇条——主な点は、全植民地の放棄——とそれ以外に厳しい条件が付け加わった。全44条の条約である。ヴェルサイユ条約を、初めドイツ代表団は承認をせず、帰国した。その後、ドイツは6月に議会で承認する。

こうして先ずドイツは、海外植民地を失った。エルザス、ロートリンゲン（アルザス、ロレーヌ）をフランスへ、ポーゼン、東プロイセンを、ポーランドへ割譲するなどし、ダンチヒ⁷⁾を自由都市に、東プロイセン南部、オーバー・シュレジエン、シュレスヴィヒは、帰属が人民投票で行なわれ、ザール地方は占領された。西ポーランドの喪失はドイツ人には一番の打撃であった。そこは長年ドイツに属していたからであり、異常に苛酷な内容と見えた。これは第2次大戦の原因になった。ちなみに隣国のドイツ人国家オーストリアは、ドイツとの合併を望んだが、禁止された⁸⁾。

次に軍備の制限である。ドイツは陸軍10万人、海軍1万5千人（10万トン）の制限を受け、徴兵制と空軍が禁止された。

最後に、莫大な賠償金の賦課であった。これを30年間払い続けるのであった。さし当りドイツは2年以内に200億マルクその他を支払い、総額は後日決定されることになった。それだけでも気の遠くなる額であって、戦勝諸国、特にフランス・ベルギーの苛酷な報復処置であった。支払いを保証するため、ライン地方が占領され、ここでドイツ軍が武装解除された。

ヴェルサイユ条約第231条では、ドイツに戦争責任があることとされ、戦争犯罪人の引渡しが要求された。なお、ドイツは、来る国際連盟に加盟が認めら

7) ダンチヒは、ドイツ人の居住する港、今のポーランドのグダニスク。後、ヒトラーはポーランド侵略の口実にした。

8) 1938年にヒトラーは、オーストリア併合によってドイツ民族の「夢」を叶えるのだった。

れていなかった。

ヴェルサイユ条約の内容が知らされることによって、ドイツ人は初めて敗戦の衝撃を受けた。シャイデマン内閣は、ヴェルサイユ条約の冷酷さに対して反対し、批准は到底できないとみて、6月21日、辞職した。続くバウアー内閣が、外相ミュラーを派遣して、やむなく、1919年6月28日、ヴェルサイユ宮殿で調印した。このヴェルサイユ条約は、ドイツ人にとって屈辱的なものであった。従って、これ以降ドイツ人は、この条約の反対に立ち上がることになる。そしてヒトラーが勢力を増す原因となる。

連合国とオーストリアとの休戦条約は、9月10日にサン・ジェルマン条約、ブルガリアとは、11月27日にヌイイー条約、ハンガリーとは、1920年6月4日にトリアノン条約、トルコとは、8月10日にセーヴル条約が結ばれた。すべてパリ近郊の宮殿の名がついた。

6. ワイマール憲法

国民議会は、ドイツ国法上最高の国家機関となった。つまり、仮政府は権限を国民議会に戻し、労兵協議会は国民議会を承認した。

ドイツの憲法は、ビスマルクの国家統一（1871年）後の帝国憲法、1918年10月28日公布の憲法、1919年2月10日議決の暫定的国家権力に関する法律、と引続き、その延長にワイマール憲法があった。この憲法の特性は、共和制と人民主権および福祉国家思想をうたい、連邦制、男女の平等の普通選挙権を規定し、立法権が優越しているが、大統領にも大きな権限が与えられた。

憲法執筆者は、フーゴー・プロイス⁹⁾であった。彼の第2次憲法草案は、仮政府で討論され、第2次草案が1919年1月20日に、公表された。ワイマール議会で憲法が討議された。だがすでに述べたように、シャイデマン内閣が総辞職し、その内務大臣プロイスも退陣した後、7月31日、議会は憲法を可決し、8

9) ベルリン商科大学教授、法学者。革命後、民主党に入る。

月14日公布された。

国民議会はその後、ベルリンに移った。これ以降、国民議会は、ワイマール憲法にのっとり行われることになった。

現実生活のドイツは、極めて混乱した状況にあったが、ワイマール憲法は、当時世界で最も民主的な憲法と言われた。いままで、ドイツ帝国の憲法は、内閣は皇帝が任命し、内閣は皇帝に責任があり、内閣には議員は普通は入れない、とされ、戦争・外交は皇帝の権限であって、戦前の日本と同じであった。

大統領は直接選挙により選ばれ、大選挙区比例代表制であって、小党分立の予想がされた。ここには議員内閣制が規定されていた。しかし他方で、大統領に大権が賦与されていた。それは、プロイスとマックス・ウェーバー¹⁰⁾の構想によるものであった。彼は、ドイツ国民が議会政治の訓練にまだ欠けており、議会だけでは事態を取捨できない場合を考慮して、大統領に緊急令という大権を与えたのである。皮肉にもこれが後年、共和制を壊し、ナチスが跳梁する一因になった。

ワイマール共和制は、社会民主党（SPD）と保守派＝軍部の協働によって生まれた。¹¹⁾

7. 第1次社会化委員会

この情勢の中で社会化委員会が組織された。第1次社会化委員会は、人民代表委員会議（Rat der Volksbeauftragten）の諮問機関として、1918年11月28日に、ハーゼの提案で出来た。

ほとんどすべての社会主義理論家と労働者大衆は、鉱山が社会化に適した部門だと確信していた。ドイツ革命の成功以後、社会化の要求が全国に沸き起こった。社会主義の要求は、11月革命の原因でなく結果であった。人民委員政府は、

10) Weber, Max. 偉大な宗教社会学者。

11) エーベルト、グレーナー（参謀次長）協定がなされていたからである。軍は共和制をまもる、エーベルトはレーテを抑える、と約束した。

ハーゼの提案により、1918年11月21日、カール・カウツキーを委員長とする第1次社会化委員会を設置した。

委員は、バロッド (K. Ballod), レーデラー (E. Lederer), フランケ (E. Franke), シュンペーター (J. Schumpeter), ウィルブランド (R. Wilbrandt), フォーゲルシュタイン (T. Vogelstein), 以上、大学教授である。そして、カウツキー (K. Kautsky), ヒルファディング (R. Hilferding), 以上、USPD である。クーノー (H. Kunow) は SPD である。ウムブライイト (P. Umbreit) は総同盟, フェ (O. Hue) は鉱山労組である。

同年12月5日に第1回会議が開かれた。ヒルファディングはこれに参加した。12月11日、「実施計画」(委員会のプログラム)が作られた。作業計画 (Arbeitsplan) が発表され、その後これにしたがって社会化委員会は、1919年2月15日、「炭鉱業の社会化にかんする暫定報告」を政府に提出した。この提案は、こうである。全炭鉱業は、創立されるはずの「ドイツ石炭共同体」に委ねられる。それがドイツの石炭経済の経済的・法律的主体となる。国家は鉱山所有権を渡し、ただ価格決定に干渉し、余剰を引き取れるだけが許される。

第1次社会化委員会は、多数派と少数派に分かれていた。Hilferding, Ballod, Cunow, Lederer, Schumpeter, Umbreit, Wilbrandt らが多数派で、Kautsky は起草に参加しなかった。少数派は私的所有の原理に固執した。

1919年2月15日に、炭鉱業の社会化の問題に関する暫定報告を出した。1919年3月7日に、石炭経済の統制に関する法律 (Gesetz über die Regelung der Kohlenwirtschaft) を出した。しかし、この委員会の暫定報告は、時の政府によって事実上無視された。1919年4月18日、「社会化委員会」は総辞職した。

8. カップ一揆

1920年、共和国政府転覆の反乱が生まれた。右翼・国粋派の政治家カップと国防軍のリュトヴィッツ将軍のクー・デタがそれである。ドイツ・ブルジョアジーは、ワイマール共和制に無関心となり、次いでこれに敵意を持つようになった。

た。

1920年3月13日、義勇軍エアハルト旅団がカップを後押しして、首都に侵入した。クー・デタ、カップ一揆である。共和制への正面攻撃である。ノスケは対抗する部隊を持っておらず、共和国政府と大統領はベルリンを逃れた。カップは自らプロイセン首相であると宣言し、反革命は先ずうまくいった。これは共和制への正面攻撃であった。SPD政府は逃げ出した。しかしカップは、ブルジョア層とその政党を掴んでから行なったのではなかった。全国で労働者階級はカップ一揆に対して、ゼネラル・ストライキを打った。17日、カップ政府は辞任した。労働者の統一の前に、たった5日間でカップは敗北した。労働組合は、ゼネストでカップ政府を倒したのであった。これは、労働者市民が共和制を守る決意が強いことを示した。

共産党は、はじめゼネストに反対し、その後、賛成した。そしてレーテ再建方針を出した。同党は、「街頭に出るな」戦術を出し、これは誤りであった。

右翼・軍部が強力になった。

そこで、労働組合が労働者政府案を出した。USPDと共産党は、それは資本の独裁だと云って、SPDと連合しなかった。これは失敗であった。この後、パウアー内閣も辞任し、ヘルマン・ミュラー内閣が成立した。国防相ノスケが解任された。彼は共産党を弾圧したが、共和国の軍隊を作ろうとした。国防相にゲスラーが就任し、彼は8年間とどまった。だが彼は、軍が共和国の1大勢力になる阻止策を講じなかった。彼は、ラインハルト（カップ一揆の首謀者）の後任として国防軍長官として、ゼークト（帝制主義者）を任命した。ゼークトは、軍を政府の介入を許さぬ「国家の中の国家」に作り上げた。

カップ一揆の後、内閣改造がされ、ヘルマン・ミュラー内閣が成立した。国防相ノスケは解任された。彼は共産党を弾圧したが、共和国の軍隊を作ろうとした。

国防相にゲスラーが就任し、彼は8年間とどまった。だが彼は、軍が共和国の1大勢力になる阻止策を講じなかった。彼は、ラインハルト（カップ一揆の首謀者）の後任として国防軍長官としてゼークト（帝制主義者）を任命した。

ゼークトは、軍を政府の介入を許さぬ「国家の中の国家」に作り上げた。

3月＝カップ・プッチ以降、軍部の力が増大した。軍部は、SPDから離れるのである。一方、SPD中央政府は軍隊に頼った。そこで軍部は力を自覚しはじめた。右翼と軍部が強大になった。その理由は、極左派が民主主義でなく、社会主義（暴力革命、国民に支持されない少数者独裁）をねらい、結局、軍人勢力を強めたのである。

「……軍部の復活は、主として、古い軍部を必要不可欠のものにしたワイマール指導者たちの責任であった。共和国を宣言した翌日の11月10日、エーベルトはグレーナー將軍との間に広範な協定を結び、秩序の維持のため軍の援助を受け入れた。正規軍は、大急ぎで編成された自由志願兵の援助を受けて、戦闘的なスパルタクス団の数十名を射殺した。共和国の「刑事」である社民党のノスケ内相は、右翼の軍隊に広範な行動の自由、つまり組織的な暗殺を認めた。」¹²⁾

9. 国会選挙

1920年6月6日に、国会選挙が行なわれた。各政党の得票数は左のようである。

社会民主党	560万
独立社会民主党	490万
共産党	40万
国家人民党と人民党	730万
民主党	220万
中央党	350万

社会民主党は、前回に較べ半分を失った。それでもしかし第1党ではあった。ドイツの政治状況が発展・変化して、国民が左右両極に分化した。右翼政党（議

12) ゲイ『ワイマール文化』36ページ。

員で、国家人民党71、人民党65)が増加した。

その中でドイツ独立社会民主党 (USPD) は、勢力を伸ばした。1920年6月の選挙で同党は第2党になった。国会議員全459名中84名であった。ところがこの大政党は、まもなく崩壊するのである。USPDは、右派と左派で形成されていた。

共産党は、今回初めて選挙に参加した。ワイマール連合 (社会民主党・民主党・中央党) は、国民から急速に見放され、実はこの時、ワイマール共和国の破局が訪れていた。ブルジョア内閣が成立し、中央党フェーレンバッハが首相となり、大統領エーベルトが留任した。社会民主党のヘゲモニーは、こうして1年半で失われた。中間右派の連合 (中央党内閣) で、純粹ブルジョア政権となった。

USPD 党首ハーゼは1919年11月に暗殺され、こうして右派指導者として¹³⁾、ディットマン、カウツキー、ヒルファディングが残った。

10. バイエルン・レーテ

1919年4月7日、ミュンヘン・レーテ共和国 (第1次) ができ、USPDのクルト・アイスナーがバイエルン首相になった。SPDとUSPDの連立であった。しかしこれは労兵協議会と対立せず、国民協議会を作った。共産党は、SPDとの共闘を拒否した。

これは第2次共和国とされた。行動委員会 (SPDとUSPDと共産党が入る) ができた。かれらはゼネスト宣言をし、内部紛争がおき、これを中央政府が軍隊を送って潰した。バイエルンはその後右翼化する。そして、右翼団体が創出された。バイエルンでは、レーテ政権後、SPD連立内閣だったが、カップー揆をきっかけに、カール (右翼) を新政府首班にした。¹⁴⁾

13) ベルンシュタインは1919年、1月蜂起の直後、USPDから社会民主党へ復帰した。

14) Die Münchner Räterepublik. Edition Suhrkamp.

11. コミンテルン

コミンテルンが1919年3月に創立された。これはかなり拙速で作られた。大体ロシア滞在の外国活動家がこの第1回大会に参加した。ローザ・ルクセンブルグはこれに反対していた。ドイツ共産党代表エーバーラインは、コミンテルンで創立に反対した。しかしこれは創立された。コミンテルンはボルシェヴィキの幻想であった。ドイツ共産党は、結局はコミンテルンに加入した。党指導部はレヴィが指導した。ドイツでは4月以来戒厳令がしかれた。8月に、共産党の全国協議会が行われ、党員は10万7千だった。レヴィの穏健方針に対して、一部は反対し、分裂をねらう者はドイツ共産主義労働党に加入した。リュールなどだった。そこで共産党の党員は半分となる。

共産党は、ヴェルサイユ条約承認反対であり、コミンテルンと同じ方針であった。

12. 第2次社会化委員会

カップ一揆が起こり、ドイツ労働者はゼネストで迎え打った。ゼネストをとく条件の1つは、「社会化の即時着手」であった。こうして、再び社会化の実施が叫ばれた。政府は4月に、第2次社会化委員会を設置した。この委員会は、7月31日、2つの案を政府に提出した。委員会内でこの2つの案への支持者数は、互いにほぼ等しかった。第1案はEmile Ledererの起草になるもので、第1次社会化委員会の多数と本質的に一致している。第2案は、ラーテナウ(W. Rathenau)の主張に基づくものであった。しかし両案はまた棄却された。それは当然でもあった。1919年7月31日にワイマール憲法が可決されており、1920年6月25日に、ドイツ人民党と民主党の政府がすでに作られていたからである。

第2次社会化委員会の委員は、K. Ballod ; F. Baltrusch キリスト教労働組合総同盟書記長 ; A. von Batocki ; A. Braun ; A. Cohen ; R. Hilferding ; O. Hue ;

H. Kaufmann 自由俸給生活者組合連合書記長；K. Kautsky；H. Kreamer；R. Kuczynski；E. Lederer；H. Lindemann；C. Melchior ワールブルク商会の出資者；F. Neustadt；W. Rathenau, AEG 社長；J. Schumpeter；C. F. von Siemens ジーメンス社長；P. Umbreit；T. Vogelstein；A. Weber；G. Werner；R. Wissel（社会民主党の経済専門家，人民代表委員となる，1919?後に経済相となる）であった。

7月31日に、「炭鉱社会化の問題にかんする社会化委員会の報告」がでた。

翌4月7日に，社会化委員会は辞任した。

13. 賠償

オーバー・シュレジエン地方が，1921年に国民投票によって，ドイツとポーランドの間に分割され，ドイツ国境はすべて決定された。

1921年まで平和条約は大部分が実施されていた。未解決のままだったのは，賠償の支払いであった。

1919年にフランスは，ドイツが戦争による損害を十分支払うべきだという原則を断固として規定しようとした。アメリカは賢明にも，一定額として決定するよう提案した。ロイド・ジョージは，1919年の興奮した雰囲気では，一定額を定めてもドイツの支払い能力をはるかに越えると判断した。彼はドイツとの和解を模索した。

1921年5月賠償委員会は，総額を1320億マルクと決定した。フェーレンバッハ内閣は，これを支払えずと，辞職した。インフレが始まった。

14. 独立社会民主党

社会民主党と独立社会民主党は，第1次世界戦争と戦争政策によって分裂し，その後，その不統一は11月革命によっても回復しなかった。そればかりか，運動の弱点は克服できず，思想的明確さを持たず，ブルジョア諸政당을政権から

追い出せず、民主共和制を社会主義に成長・変革させられなかった。

その責任は、両党だけにあったわけではない。勝利した協商国連合が、社会主義を恐れ、あるいは敵視したこと、また社会民主党よりも古い反動的上層部と協力する方を好んだ、という事情がある。しかしそれを勘定に入れても、両党は、ドイツの政治経済的反動、つまり官僚、ユンカー、重工業資本家、軍部に対して闘いを行い、諸外国の敵対や不信を拭い去り、ドイツ労働者運動をヨーロッパの平和の保証人とすることが必要であった。

国内と外国に対する闘いで、「ヒルファディングは、単に先見の明ある政治家の能力を発揮しただけではなかった。彼は、対外・国内の政治問題、特に経済問題を十分マスターしていたが、偉大な党指導者としての能力をも示した。彼はプロレタリの統一を語るだけでなく、労働者階級の右派と左派¹⁵⁾の弱点や誤りを批判し、また全労働者層のために、現在の実践的任務と闘争目標を定式化し、統一して自由な独立の社会主義運動の基盤を作り上げることを、最重要な課題だと思った。」¹⁶⁾

1919年5月2 - 6日に、USPD大会が開かれた。ここで左右対立が明らかになった。同党内は、右派（ハーゼ）と左派（ドイミヒ）の2つがあった。

1919年11月7日、ドイツ独立社会民主党党首フーゴー・ハーゼが暗殺された。ヒルファディングは、ハーゼ亡きあと、党の精神的指導者になった。ヒルファディングは、軍部や右翼、共和政府の不徹底さとともに、ボルシェヴィズムの潮流と闘った。

1919年11月30日 - 12月6日のUSPD大会で、レーテ独裁の承認、コミンテルン加入問題が問題となった。コミンテルンは、USPD左派の共産党への加入をすすめた。コミンテルンは、右派指導者を排除するため、コミンテルン加入条件18を21に増やした。

15) 右派とは社会民主党、左派とは共産党である。

16) シュタイン『ヒルファディング』成文社。

USPD のハレ大会が1920年に開かれた。コミンテルン加入問題が議論された。ここで第3 インタナショナル議長ジノヴィエフが演説した。¹⁷⁾

次いでヒルファディングは次のようにジノヴィエフに反対して演説した。この報告は、『革命的政策か権力幻想か?』¹⁸⁾という冊子になった。

ヒルファディングは演説する。

[コミンテルン] 執行委員会の代表者 [ジノヴィエフ] は、純粹にロシア的思考で [演説を] 行った。彼は、全世界をロシア的に作り上げようとした。ロシアのメンシェヴィスムとボルシェヴィキ関係をドイツでも当てはめようとしている。ドイツや西ヨーロッパでは関係ない。

労働者階級の解放は、独自の仕事であって、外国の経験を単純に当てはめるものではない。ロシア革命の経験を学ぶことは重要だが、それで何をなすべきで何をしてはいけないかを学ぶのである。ジノヴィエフは、民主主義と世界革命に我々がどういう態度を取るのか、と問う。ドイツ革命は去った。頂点を越えてしまった。だが革命を信じない人々は第三インタナショナルと関係ないのだそうだ。

11月9日 [のドイツ革命] は、ある意味で、真の革命ではなかった、といつも言ってきた。この革命は終わりではなく始まりである。労働者階級の革命化の過程が進展している。

今私が我が党を守り、幻想に反対し、一揆主義者や共産主義者の誤った戦術に反対しているのに、大会代議員は共産主義者に賛成し、我が党に反対している。

ドイツでこの革命の発展が、大衆の精神的革命化が、我が党の分裂によっては促進されない。

我々は、公安の社会化や生産管理を必要としておらず、政治権力の獲得を必

17) 「ジノヴィエフ演説(1)」 in : 『人文研究』 67, 1984年3月。(2)が、書かれていない。

18) ヒルファディング Revolutionäre Politik oder Machtillusionen ?

要としている (S. 9)。

ジノヴィエフは、我々が革命を信じないので革命家ではないと言う。だがそれは我々の見解をまだ理解していない。我々は革命化過程の真只中におり、党の任務はこれを今日の状況で適応できるあらゆる手段で押し進めることである。ジノヴィエフは我々の経済的見解について誤っている。だがドイツでは経済条件は社会主義にとって熟している、と我々は考える。だが経済的条件があっても政治的条件はどうなのか。我々は結集したプロレタリ戦線を持たねばならない。我々は、左派から奇襲されており、右派に見放されている。

後に、このヒルファディングに対してラデックの批判（「Masken sind Gefallen」）が冊子として出た。

ハレ大会で、左右の分裂はすでにきまっていた。大会は、224 (236) 対158 (156) でコミンテルン加入を可決した。USPD は、ドイツ共産党とともに、統一共産党を結成することになって合流した。しかし右派は合流しなかった。左派は党内で多数であったが、実際は全党員80万人のうち、共産党に移ったものは、30万人であった。左派の指導者レーデプールは、共産党に入らなかった。あらかじめ加入工作がされていたが、左派の人々が皆加入したわけではなかった。USPD 国会議員で共産党へ移った者は4分の1であった。

残った右派の30万人は、しばらく、彼らだけで存在し留まっていたが、1922年秋にSPDに復帰した。レーデプールたち左派はそこに加わらなかった。結局、20万名の人々はどちらにも加わらなかった。

ドイツ独立社会民主党が、左右両派に別れ、コミンテルンによって左派がたもとを分かち、こうしてドイツ独立社会民主党が減ってしまった。これは現代にも教訓を与える。

15. 共産党

1920年12月4 - 7日に、共産党と左派独立社会民主党との合同大会があり、ドイツ統一共産党が成立した。パウル・レヴィとドイミヒが議長だった。ドイツ共産主義労働者党は、独自にコミンテルンに加入し、友党となった。

1921年1月に、レヴィの「公開書簡」、統一戦線戦術、が出る。

1921年2月、党内のコミンテルン批判者、レヴィたちは、中央部を辞任した。こうしてコミンテルン派は多数派をえた。¹⁹⁾

1921年3月闘争がおきた。共産党は、武装蜂起に反対した、しかし挑発された。そして鎮圧された。レーテ運動・レーテ権力は抹殺された。

コミンテルンは、ドイツ革命を狙った。コミンテルンは、ロシア・クロンシュタット反乱におびえ、ドイツ革命を期待したのだった。共産党中央は、ゼネストと武装をよびかけ、せいぜい30万の労働者がストをした。そして、鎮圧された。こうして失敗した。

レヴィは、コミンテルンとボルシェヴィキを批判し、除名された。彼は共産主義労働団を作った。

1921年、コミンテルン第3回世界大会が開かれた。レーニン²⁰⁾は自己批判し、レヴィは大体正しい、とした。しかし彼は責任をドイツ指導部に転嫁した。21年「公開書簡」が、新戦術の例として推薦された。

小 括

ドイツ独立社会民主党は、かなりよい政党であった。同党は実際にドイツ革命の主力となった。社会民主党は受け身の政党になっていた。コミンテルン＝

19) ナチス・ドイツが第2次世界大戦に完敗したとき、再建ドイツ共産党は、1919-1933年における党政策の誤謬を自己批判して、党もまたドイツの悲劇にたいする責任から免れえないことを承認した。当たり前である。

20) あたらしい伝記として、サーヴィス『レーニン』上下、岩波書店。

ドイツ共産党は、戦術を誤った。それにロシア的であって、ドイツにはふさわしくなかった。コミンテルンが USPD を2つに割ってしまったことは、2つのマイナスの意味がある。第1に、USPD の人々の怒りを買うことは当然である。第2に、まともな変革の政党がなくなってしまった。

USPD はロシアのやり方を踏襲しなかったから、ドイツではもっと活動でき、もっと大きくなり得たはずである。こういうまともな政党が存続・発展していれば、後年のナチスに対してかなり大きな抵抗勢力になったはずであり、ナチスも簡単に権力を奪うことはできなかつただろう。戦術を変えて伸張した、後の共産党を見ても分かる。

その後のドイツでは、コミンテルンに縛られた共産党では、ドイツの変革はできなかつただろうし、国家社会がゆるさなかつただろう。USPD だったらドイツの変革はできたのではないか。

ヒルファディング個人の政治的運命について言えば、USPD が割れてしまったからには、彼本来の政治的活動は充分行なえなかつた。USPD が彼の政治的本拠であった。社会民主党に復帰してからは、彼は、それはそれなりに、政治的インテリゲンチアとしては活動できたし、重宝されたのだが、本当の舞台ではなかつた。

ドイツ小史

- | | |
|-----------|--|
| 1918・11・9 | ドイツ革命 |
| 11 | ヒルファディング、「Freiheit」の編集長になる。 |
| 11・15 | 「Freiheit」創刊、3万部、ヒルファディング、創刊より1週間遅れて指揮をとる。 |
| 12 | ヒルファディング、第1次社会化委員会の委員になる。カウツキーやレーデブーアと共に。 |
| 12 | ヒルファディング、労兵協議会(=レーテ)で報告。 |
| 1918-19 | ドイツ共産党(スパルタクス)創立。 |
| 1919・1月 | ローザ、リープクネヒト、殺害さる。 |

- 1919 ドイツ労働者党 (=後のナチ) 創立。
- 1919・3月 モスコーで第3 インタナショナル創立。
- 1919 ヴェルサイユ条約。
- 1919 ワイマールのドイツ国民議会, 大統領エーベルトになる。
- 1919夏 「Freiheit」25 (または35) 万部発行。
- 1919 ヒルファディング, ニュルンベルクで, 社会化について報告。
- 1919・8月 ヒルファディング, 社会主義インタナショナルに参加。
- 1919・11 Hugo Haase 殺害さる。
- 11・30- USPD 臨時大会 Leipzig, そこでヒルファディングが報告
- 12・6 する。
- 1920・3 Kapp-Putsch
- 1920・5・15 第2次社会化委員会が召集され, ヒルファディング入る。
- 1920 ヒルファディング, 「社会化と諸階級の力関係」を報告。
- 1920・6月 ワイマール連合へる。ただし第1党 SPD. USPD 第2党。共産党はじめて出る。右翼政党 (国家人民党71, 人民党65) 増加。
- 1920・7-8月 コミンテルン第2回大会, USPD は, 4名を派遣する。
- 10・12-17 USPD Halle 大会, ジノヴィエフとヒルファディングの対決。236名がモスクワに賛成, 156値が反対。
- 1920-25 ヒルファディング, 帝国経済会議に属す。
- 1921・1月 USPD ライプチヒ大会。
- 1921・2月 「第2半」インター (Sozialistische Arbeiter Internationale) 創立。
- 1921 Erzberger 前蔵相暗殺。
- 1921・5月 賠償委員会, 総額を1320億マルクと決定, フェーレンバッハ内閣, これを支払えずと, 辞職。インフレ始まる。

- 1922・4?月 ヴィルト内閣, 外相ラーテナウ (PSD) 入る。
ソ連とラップロ条約を締結, 独ソが外交・経済関係を結ぶ。
ソ連はじめて外国に承認される。西からの圧力が強いので
独がソと結ぶ。
- 11月 ヴィルト内閣退陣。
- 1922 ラーテナウ (外相) 暗殺, 右翼のテロ=武装勢力。
- 1922 USPD ゲラ大会。
- 1922・9 USPD の1部, 多数派社会民主党と合同。ニュルンベルク
大会で。
- 1923・1月 フランスのルール占領。クーノー内閣「消極的抵抗」策。
インフレ生ずる。原因, 戦時中からの公債発行。不換紙幣。
- 8月 ゼネスト, クーノー内閣倒れる。
- 1923・8・13 ヒルファディング, はじめて Reichsfinanzminister になる。
7週間就任。大統領は Ebert, 首相は Gustav Stresemann。
- 1923・9 ヒルファディング, 通貨改革計画を展開。
- 9月 シュトレーゼマン内閣, ルールの「消極的抵抗」打ち切り,
「履行」政策へ。
- 10月 ザクセン, チューリンゲンで労働者政権。ハンブルグ共産
党武装蜂起。
- 1923秋, ナチ党员 5万人以上。ナチス, 大衆運動として発展し, 下
層中産階級, 青年層にアピールした。
- 11月 ミュンヘン一揆。鎮圧さる。国防軍強化。これによりその
後, ヒトラーは戦術を転換する。

文 献

- 小林昭三『ワイマール共和国の成立』成文堂
 中林賢二郎『統一戦線史序説, 1914-1823』大月書店 1876
 村瀬興雄『ドイツ現代史』増補版 東大出版 1965
 K. ゾントハイマー『ワイマール共和国の政治思想』ミネルヴァ書房 1977
 トリアッティ『コミンテルン史論』青木書店 1966
 Adolf Hitler, Mein Kampf. Bd. 1., 1925 ; Bd. 2. 1927 訳, 角川文庫
 篠原 一『ドイツ革命史序説』第3章
 ローゼンベルグ『ヴァイマール共和国史』
 Robert F. Wheeler, USPD und Internationale Sozialistischer Internationalismus in
 der Zeit der Revolution. Frankfurt/M, Berlin Wien 1975
 加藤栄一『ワイマール体制の経済構造』東大出版会 1975
 安世 舟『ドイツ社会民主党史序説』御茶の水書房 1973
 エーリッヒ・アイク『ワイマール共和国史』全4巻
 『ドイツ社会党の一駒』
 Eugen Prager, Geschichte der USPD.
 『ブリューニング回顧録』上下 ベリカン社
 バーム・ダット『ファシズム論』理想社
 ノイマン『ビヒモス』みすず書房
 『ナチスの時代』岩波
 Karl Dietrich Bracher, Die Auflösung der Weimarer Republik, 4. Aufl.,
 Villingen/Schwarzwald 1964,

ヒルファディングの著作目録は、『現代資本主義論』『若きヒルファディング』にある。研究文献目録は、『金融資本論の成立』『若きヒルファディング』にある。